

自動車の自動運転の推進と社会的課題について —移動の本能と新しい社会のデザイン—

日時：2019年9月16日(月・祝)10:00-11:45及び13:15-17:00

場所：日本学術会議 講堂

- アクセス：日本学術会議(東京都港区六本木7-22-34)
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口(青山霊園方面)より徒歩1分
- お申込み：日本学術会議ウェブサイト(<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>)にて
令和元年9月13日(金)17時までにお申込み下さい。参加無料、定員300名、先着順
- お問合せ先：日本学術会議事務局 企画課学術フォーラム担当、電話：03-3403-6295

開催趣旨：未来投資会議や国家戦略などに沿って、政府をあげて自動運転に係わる研究開発や制度設計の取り組みがなされおり、産業界や地方自治体から熱い視線が注がれている。日本学術会議では、社会的インパクトの高い課題であるという認識から、人文・社会科学系、医学・看護系および理工学系の学識経験者を交えた課題別委員会「自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会」を発足し、技術的な観点に留まらない社会的課題として広く議論を重ねてきた。そこで本委員会としては、広く学術に関心を持つ方たちと、人類の移動の本能という観点を交えながら、社会制度や市民生活の係わり方や社会受容性について広く議論する場を企画した。セッション1では、技術開発とモビリティサービスの将来展望について、セッション2では医学・看護学から見た運転支援への期待について、セッション3では完全自動運転に向けた人文・社会科学上の課題について、幅広く議論したい。

10:00	司会 宮崎恵子(連携会員、海上技術安全研究所 国際連携センター 副センター長)
-10:20	開催挨拶 趣旨説明 渡辺美代子(副会長、第三部会員、科学技術振興機構 副理事) 大倉典子(第三部会員、芝浦工業大学 特任教授)
10:20	セッション1
-11:45	「技術開発動向とモビリティサービス」 官民ITS構想・ロードマップについて モビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)への期待 ロボット、航空機、鉄道、船舶分野の自動運転 質疑応答 司会 大倉典子(前掲) 平井淳生(内閣官房 情報通信技術総合戦略室 内閣参事官) 須田義大(連携会員、東京大学 モビリティイノベーション連携研究機構長・教授) 浅間一(第三部会員、東京大学 大学院工学系研究科 教授) 鈴木真二(連携会員、東京大学 未来ビジョン研究センター 特任教授) 古閑隆章(東京大学 大学院工学系研究科 教授) 宮崎恵子(前掲)
11:45	昼休み
13:15	セッション2
-14:30	「医学・看護学からみた運転支援への期待」 認知症の人と家族にとっての運転 高次脳機能障害と運転 服薬中の精神疾患患者の運転支援 質疑応答 司会 鎌田実(特任連携会員、東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授) 太田喜久子(連携会員、日本赤十字看護大学 特任教授) 藤井幸彦(連携会員、新潟大学 脳研究所 脳神経外科学分野 教授) 尾崎紀夫(連携会員、名古屋大学 大学院医学系研究科 教授)
14:30	休憩
14:45	セッション3
-16:45	「完全自動運転をめぐる人文・社会科学に おける取組」 自動運転と社会倫理 自動運転に対する受容的態度とは 自動運転と法律 自動運転の経済学的考察 質疑応答 司会 佐倉統(連携会員、東京大学 大学院情報学環 教授) 遠藤薫(第一部会員、学習院大学 法学部 教授) 唐沢かおり(連携会員、東京大学 大学院人文社会系研究科 教授) 松宮孝明(連携会員、立命館大学 大学院法務研究科 教授) 三好博昭(同志社大学 政策学部・総合政策科学研究科 教授/技術・企業・国際競争力研究センター長)
16:45	クロージング 永井正夫(連携会員、日本自動車研究所代表理事・研究所長)

主催：日本学術会議(企画：課題別委員会「自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会」)
後援：内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)、文部科学省(予定)

協賛：ITS Japan、うつ病学会、応用哲学会、科学基礎論学会、科学哲学会、計測自動制御学会、研究・イノベーション学会、サービス学会、システム情報制御学会、自動車技術会、情報処理学会、神経精神薬理学会、人工知能学会、生物学的精神医学会、精密工学会、電気学会、電子情報通信学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本機械学会、日本社会心理学会、日本心理学会、日本船舶海洋工学会、認知症の人と家族の会(予定)